

2023年9月社長会見

1. 営業・輸送概況
2. JR西日本グループのデジタル戦略を支える人財の確保・育成
～DXをリードする新会社の設立～
3. 踏切の更なる安全性向上
～「踏切ゲート-Lite」の展開～
4. 大阪・関西万博に向けた機運醸成の取り組み
～ラッピング列車の運行・デザイン等について～

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、8月はコロナ前の2019年比で89.4%、9月は25日までの3週間分で85.7%です。

なお、2019年は10月1日に消費税の増税があり、増税前の先買いの影響を除くと、9月は93%程度と見ています。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
8月	130.3% (89.4%)	125.2% (101.4%)	139.0% (85.5%)	104.9% (91.2%)
9月(9/1~25)	125.4% (85.7%)	126.2% (107.4%)	131.1% (85.9%)	109.6% (68.9%)

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

※ () 内は、コロナ前の2019年同日比。

注) 2019年同日比は、2019年10月1日に消費税増税があり、定期券や中長距離券を増税前に購入する傾向があったことから、9月の運輸取扱収入の2019年同日比は実勢よりも低くなっています。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況は、山陽新幹線は、8月が2019年比で88%、9月が25日までで91%。近畿圏は、8月が97%、9月が25日までで102%です。

なお、昨今の人流の回復をモニタリングする指標として、今月から、近畿圏における自動改札通過人員も併せてお示ししており、9月の2019年比は、90%となっています。

8月・9月は、お盆に台風の影響を受けたものの、旅行需要は回復基調であり、また、インバウンド需要

にも支えられ、堅調に推移しています。

引き続き、安全安定輸送に努め、ご利用の拡大を図ってまいります。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
8月	144% (88%)	143% (90%)	171% (83%)	117% (97%)	112% (89%)
9月(9/1~25)	136% (91%)	133% (90%)	150% (88%)	117% (102%)	113% (90%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同环比を併記。
※（）内は、コロナ前の2019年同环比。

2. JR西日本グループのデジタル戦略を支える人財の確保・育成 ～DXをリードする新会社の設立～

当社グループでは、「長期ビジョン2032」で描いた未来を実現するため、データやデジタル技術を駆使し、各事業の活性化と構造改革及び多様なサービスの展開に取り組んでおります。

この度、この実現に向け、デジタル人財が社会全体で不足する中において、高度デジタル人財を採用し、デジタル面から支えるための新会社を設立します。

新会社では、「高度デジタル人財の採用・育成の加速」を基盤に、「各事業と一体でのデジタル施策の実行支援」や「データ活用による事業横断の価値創出」を図ってまいります。

JR西日本グループのデジタル戦略を支える人財の確保・育成～DXをリードする新会社の設立～

2

新会社の位置づけ

デジタル人財が社会全体で不足する中、高度デジタル人財を採用可能な機能子会社を設立し、確実に採用していくとともに、各プロジェクトにアサインすることで、各事業のデジタル施策の実現を加速。

グループ長期ビジョン“実現したい未来”をデジタル面から支える

各事業と一体でのデジタル施策の共創

データ利活用による事業横断の価値創出

高度デジタル人財の採用・育成の加速

JR西日本グループ
“実現したい未来”



出典：JR西日本グループ 長期ビジョン2032

【新会社の概要】

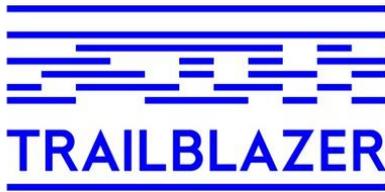
社名は「トレイルブレイザー」です。

当社グループを顧客としたデジタルコンサルティングエージェンシーとして、10月に出発いたします。

社名には、trailblazerという単語が「先駆者」という意味を持つこと、「rail」という文字列も含まれていることから、「鉄道から始まり、新たな世界を目指し、実現していく先駆者となる」という想いを込めました。

ミッションには、「GO WILD WEST!」を掲げ、従来の決められたやり方から脱却し、新しいことに挑戦し続けます。

■ JR西日本グループをクライアントとしたデジタルコンサルティングエージェンシー



JR 西日本グループの
デジタルアセットのすべてで、
未来からの課題に挑む

社名の由来 **Rail (鉄道) + Trailblazer (先駆者)**

鉄道から始まり、新たな世界を目指し、
実現していく先駆者となる

Mision **GO WILD WEST!**

Vision **日本はいつも西から変わる**

Value **伸びしろしかない
西からいこか
はよやろう**

会社名 **株式会社TRAILBLAZER**

事業内容
・鉄道オペレーションの生産性向上
及び個客接点・体験に関する企画・開発
・JR西日本グループデジタル施策の共創

社員数 **2025年度末に150名規模を計画**

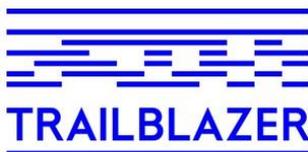
設立 **2023年10月**

株主構成 **JR西日本、ギックス**

TRAILBLAZER社は、主に、「鉄道オペレーションの生産性向上及び個客接点・体験に関する企画・開発」と「当社グループに対するデジタル施策の実行支援」などを行い、当社グループの事業共創をデジタルの力で加速させていきます。

具体的には、「モバイルICOCA、J-WESTカード等の決済領域の強化」など、プロジェクトベースでTRAILBLAZERのデジタル人材をアサインさせ、成果を創出することをイメージしております。

■ JR西日本グループの事業共創を、デジタルの力で加速させる



PJベースで
デジタル人材をアサイン



攻めのデジタル領域を優先

- ・ 鉄道オペレーションの生産性向上のためのソリューション開発
- ・ 鉄道マーケティングのさらなるデジタル適応による強化
- ・ グループ横断施策推進、分析支援
- ・ WESTERアプリのUI・UX改善、WESTERポイント活性化企画
- ・ モバイルICOCA、J-WESTカード及びウォレットの決済領域の強化

【ターゲットする人材イメージ】

求める人材像についてです。TRAILBLAZERは、デジタル技術を保有する優秀な人材にとって、西日本を出発地として、日本及び世界へインパクトを与える最先端のデジタル関連の仕事に携われる企業となることを目指しております。

西日本の場に魅力を感じて、事業主体としての経験を積みたいと思っている方、当社グループの持つ大きなフィールドでインパクトを残したいと考えている方、自身の能力を地方創生に活かしたいと考えている方などを広く募集します。

TRAILBLAZER社を当社グループのデジタル施策の更なる推進のドライバーとして機能させ、これからも、データやデジタル技術を用いて、人、まち、社会のつながりを進化させ、お客様の心や未来を動かしていきたいと思っています。

西日本を出発地として、日本及び世界へインパクトを与え、
当社グループの“志”に共感する人材が最先端のデジタル関連の仕事に携われる企業となることを目指す

西日本の場に 魅了	×	事業主体として チャレンジしたい	• コンサルやSIer*で、デジタル領域に携わっているが、事業主体としての経験を積みたい
	×	手触り感のある プロジェクトに参画したい	• 直接的かつインパクトのある場面で活躍したい
	×	地方創生に 貢献したい	• 自分のケイパビリティを地方創生に活かして、地元に貢献したい
	×	鉄道がすき！	• 鉄道に関連する仕事をしたい

※SIer(システムインテグレーター)：システムの開発・設計・運用や導入後のサポートなどを行う企業

【CEATEC2023への出展】

なお、当社グループのDXの取り組みについて、昨年に引き続き、10月17日から20日に幕張メッセにて開催される「シーテック」に出展いたします。今回は、「Toward the Future (未来に向かって)」をコンセプトに、私たちが持つ技術を使って、どのようなミライを作り出し皆さまにお届けしたいのか、昨年以上に展示エリアを拡大し、幅広い内容でお届けしたいと考えています。是非、私どもが描くミライをご覧にお越しく下さい。

■開催期間：2023年10月17日(火)～20日(金)

■会場：幕張メッセ (千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)

■出展コンセプト：[Toward the Future\(未来に向かって\)](#)



■ 出展内容 (一部)

- 【お客様をもっと知るために】
 - 鉄道混雑率予測
- 【お客様に安心してご利用いただくために】
 - 鉄道指令業務アシストAI
 - 機械故障予測AI
- 【スマホを使ってもっと簡単に】
 - 動揺判定システム
- 【お客さまにもっと素晴らしい体験を】
 - New Wallet Moves You. (新たな決済サービス)
- 【より安全な生活を】
 - 旅客見守りカメラAI

3.踏切の更なる安全性向上 ～「踏切ゲート-Lite」の展開～

第4種踏切に対する安全対策の一つである「踏切ゲート-Lite」について、当社の全エリアへ展開することとしたので、ご紹介いたします。

【当社における踏切の現状】

第4種踏切とは、警報機及び遮断機が無い踏切を指し、全国に約2,400箇所あります。この踏切では、遮断機や警報機を備えた第1種踏切と比較し、事故発生率が高く、安全性向上が課題となっています。

当社エリアにおいては、会社発足時に約1,100箇所ありましたが、恒久的な対策である踏切の廃止や踏切の第1種化を進めることで約7割削減し、事故発生状況についても、年間3件程度に減少しています。



【既存の安全対策と改善のねらい】

しかしながら、これらの恒久対策には、多くの時間や費用がかかります。

加えて、第4種踏切における「100 踏切当たりの事故発生率」は、第1種踏切と比較すると、依然として高い水準であり、引き続き、安全対策を講じていく必要があります。

そこで、よりスピーディに低コストで設置可能で、高い一旦停止効果が期待できる「踏切ゲート」を2021年度から、24箇所の踏切に設置し、その状況を確認しながら、安全性向上を図ってまいりました。

そして、この度、歩行者等が通行する踏切において、施工性により優れた「踏切ゲート-Lite」を開発し、当社の全エリアへ展開していきたいと考えております。これにより、残存する第4種踏切に対しての安全対策を更に加速させてまいります。

■ 第4種踏切における既存の安全対策と課題

- 恒久対策
- ・ 廃止………関係者との合意形成に時間を要する
 - ・ 第1種化…多くの費用や工期を要することに加え、警報音に関して、地元理解が必要

■ 踏切ゲート及び踏切ゲート-Liteの開発

- ・ 恒久対策と比較し、よりスピーディで、かつ低コストで設置が可能な「踏切ゲート」を2021年度から展開
- ・ 2022年度末時点で、24箇所を整備済
※設置した箇所では、一旦停止率が大幅に向上し、事故やトラブルは発生していない

踏切ゲートと同様の効果が期待でき、かつ施工性に優れた「踏切ゲート-Lite」を開発

残存する第4種踏切に対して、整備を加速させる



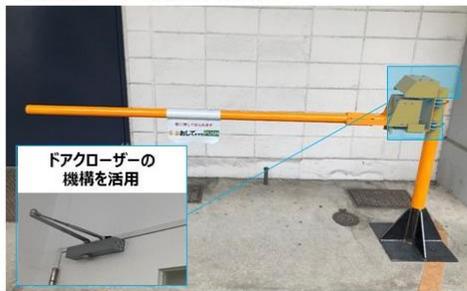
写真：踏切ゲート

【踏切ゲート-Lite の概要】

「踏切ゲート-Lite」は、一般的なドアについている開閉スピードを調整する「ドアクローザー」の機能を採用しており、踏切進入時には、上方向に遮断棒を上げ、退出時には、上方向に加え、遮断棒を押すことでも通り抜けることができる仕組みとなっています。

昨年度、宇部線にて実施した実証実験では、従来型の「踏切ゲート」と同等の一旦停止効果が確認できました。

■ 踏切ゲート-Liteの仕組み



■ 各種性能比較

	踏切ゲート-Lite	踏切ゲート
開閉方法	上方向に開く（退出時のみ前にも開く）	前方向に開く
施工性	約2時間	約6時間
適用範囲	小型特殊自動車の通行「不可」（主に歩行者等が通行）	小型特殊自動車の通行「可」
一旦停止効果	通行者の一旦停止率：95%	

【2025年度末までの展望】

そこで、今年度下期より順次、「踏切ゲート-Lite」の設置を進め、2025年度までに、約160箇所の踏切に展開してまいります。従来型の「踏切ゲート」の整備計画数と合わせると、約220箇所の踏切に整備を行う予定です。

これは、当社エリアに現在ある第4種踏切の約6割に相当します。

引き続き、ハード・ソフトの両面から対策を着実に実施し、安全・安心な鉄道サービスの提供に寄与してまいります。

■整備スケジュール

(単位：箇所)

	2021	2022	2023				2024	2025	箇所数
			1Q	2Q	3Q	4Q			
踏切ゲート	5	19	20				14		58
踏切ゲート-Lite			試験・評価	25			41	約90	約160

※ 協議状況や詳細な現場調査の結果、整備数が減少する可能性あり

■エリア別の整備予定数

(単位：箇所)

		北陸地方	近畿地方	中国地方	計
整備予定数	踏切ゲート	2	1	55	58
	踏切ゲート-Lite	約20	約10	約130	約160
【参考】第4種踏切数		27	21	330	378

2025年度末までに、**約220箇所（全体の約60%）**の第4種踏切に「踏切ゲート」及び「踏切ゲート-Lite」の整備を目指す

4. 大阪・関西万博に向けた機運醸成の取り組み ～ラッピング列車の運行・デザイン等について～

当社はこれまで、万博の開催に向け、輸送力の強化や駅ホームの安全性向上などに取り組むこととお知らせいたしました。

今回、機運醸成の取り組みとして、大阪・関西万博開催の500日前である11月30日より、大阪環状線およびJRゆめ咲線を走行する323系1編成にて、ラッピング列車を運行いたします。ラッピングには大阪・関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」などをデザインする予定です。

このラッピング列車の運行により、より多くの方に、大阪・関西万博のことを知っていただくとともに、ワクワク感をお伝えしていきたいと考えております。

なお、ラッピング列車運行に伴い、万博協会様と「広報・プロモーション協賛契約」を締結いたしましたので、あわせてご報告いたします。

今後も、グループ会社と連携し、駅空間を活用したプロモーションを展開するなど、大阪・関西万博の機運醸成に一層取り組むとともに、安全で快適、そして持続可能な万博の開催に向けて、貢献してまいりたいと考えています。

万博アクセス輸送に向けた取り組み（既発表）

- ・新大阪駅～桜島駅間に直通臨時列車を設定するなど、ピーク時の輸送力強化を計画
- ・西九条、弁天町駅におけるホーム柵の整備 など

ラッピング列車の概要

■運行期間

2023年11月30日（木）～大阪・関西万博 会期終了まで

※会期終了後、ラッピング撤去までの間は運行予定

■運行線区

大阪環状線、JRゆめ咲線

■対象車両

323系（8両・1編成）

